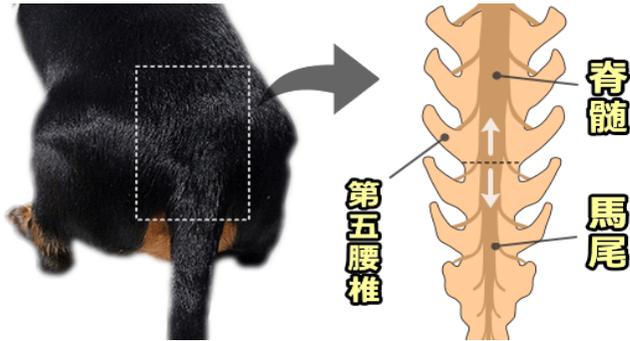


# Information\_2

今回はいつもと違う仕草や動きで発見できる、今の時期に注意しておきたい、わんちゃんの神経系の病気をふたつご紹介します。

## 馬尾症候群

腰椎から仙椎付近の脊髄と神経根の圧迫により様々な神経症状を伴う症候群で、変性性腰仙部狭窄症などとも呼ばれる脊椎の疾患です。



### ☆症状

腰部の痛み、後肢のふらつき、後肢が痺れることによる皮膚の舐めこわし、足先の咬傷、筋肉の委縮、尾が振れない、失禁などがあげられます。

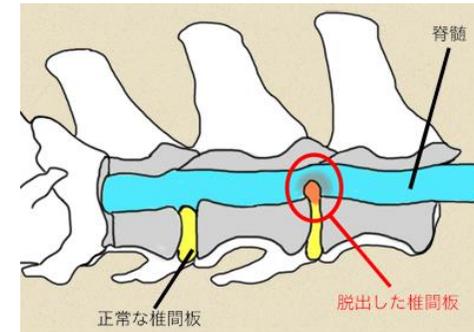
発生頻度の高い犬種  
ジャーマンシェパード、レトリバー種、  
バーニーズマウンテンドック、ワイマラナー、  
ダルメシアン、オールドイングリッシュなど特に大型犬に多く診られる疾患です。

### ※馬尾とは・・・

脊髄の末端からしっぽに向かっていく神経の束のことを「馬尾」と言います。

## 椎間板ヘルニア

胸腰椎・頸椎に発生する病気です。椎間板の破裂や変形によって、背骨の中を通る脊髄神経の圧迫を引き起こす変性性疾患です。



### ☆症状

症状には1度～5度まで症状の段階があります。

段階		症状
1	脊椎痛	・痛みの為、背中を丸める姿勢をとることが多い。 ・運動したまらない。抱き上げると痛がる。
2	歩行可能な不全麻痺・運動失調	・後肢の力が弱くなり、ふらつきながら歩く。 ・足先を引きずるため、指先の爪がすり減っている。
3	歩行不可能な不全麻痺	自力で立ち上がれない。後肢と尾の動きはあるが、前肢だけで進み、後肢はひきずるようになる。
4	完全麻痺	後肢・尾の動きが完全になくなる。自力で排尿できず、膀胱に尿が貯まった状態になる。体を持ち上げる、吠えた時に少しづつ尿が漏れ出ることが多い。
5	深部痛覚消失	後肢・尾の全感覚がなくなる。

発生頻度の高い犬種

ダックスフンド、フレンチブルドッグ、ウェルシュコーギー、ビーグルシー・ズー、コッカー・スパニエル、ペキニーズなどです。これらの犬種は遺伝的に椎間板ヘルニアを起こす危険性が最も高いと言われています。